

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 8 市民が自己を高め、生きがいをもって暮らせる

行動目標 8-2 市民が生涯を通じて学習、スポーツ活動に取り組める。 (所管課名 教育委員会 教育センター)

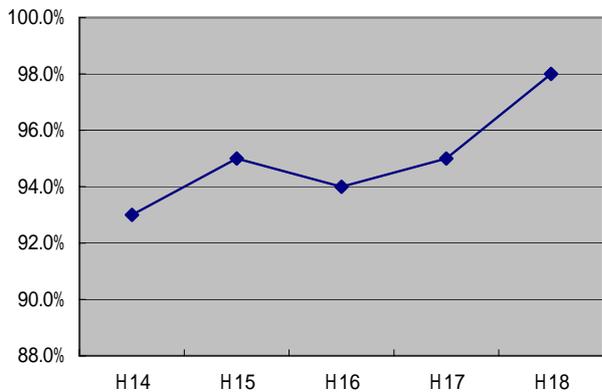
任務 視聴覚に関する事業を通じて市民の文化活動を推進する

任務の成果・活動指標の推移

参加者(利用者)へのアンケートによる満足度

H14実績	93.0%
H15実績	95.0%
H16実績	94.0%
H17実績	95.0%
H18目標	98%以上

参加者(利用者)へのアンケートによる満足度



指標の説明

視聴覚に関する事業を通じて市民の文化活動を推進する事業を行う満足度の指標は、市民にわかりやすく把握できるようにするため、講座・映画会出席者に対するアンケートによる満足度を示す割合(%)で揚げた。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

研修事業として、市民の生涯学習での多様なニーズに応えるため、視聴覚メディアの活用に関する実技研修会を10講座実施した。また教育関係者等が視聴覚教材の制作をする場合に、機器操作等の借用及び指導を行った。その結果、多くの市民の参加が得られた。(H16年度:ビデオ・パソコン研修会参加者323人;応募倍率2.6倍、H17年度:ビデオ・パソコン研修会参加者328人;応募倍率2.8倍。)H17年度の参加応募者は減少増加し、満足度も高かった。

ライブラリー事業として、貸出し業務では機器の貸出しは、H16年度300回、H17年度287回となったが、プロジェクター貸出の比率は全体の91%と高い。またビデオテープ貸出は昨年に比べ90本増となっている。その結果、高齢化社会のもと、市民生活へのIT化が浸透してきており、本取り組みが任務遂行に大いに役立っている。

「親と子の映画会」をH16・17年度ともに7回、実施した。(H16年度:7回1013人、H17年度:7回754人)。結果、内容満足度は高かったが参加者は減少傾向にある。

平成18年度

視聴覚センターの機器の整備を推進し、市民のニーズが高い実技研修会の充実を図り、市民文化活動を推進していく。また最新機種を導入やDVD等のデジタル化されたソフトの導入を求める声に応えるための機器整備を推進し、一層の需用拡大を図る。

「親と子の映画会」は年7回実施するが、参加者の減少もあり、見直しを検討する。

これからの課題、施策等展開の方向性

市民の生涯学習に寄与できる実技等の研修会の充実を図る。

貸出しの多い機器の更新を行い、ライブラリー事業の整備、推進を図る。

視聴覚センターの業務の見直しを図り、効率的な運営に努める。